

# 2022年詞会



## 2022年詞会

# 『年詞会だよ! 全員集合!!』 ～私は元気です～

### 代表理事年頭挨拶

香川同友会 代表理事 林 哲也 氏 (高松第4支部)

香川県ケアマネジメントセンター(株) / 代表取締役

#### ① 昨年の振り返って

早速ですが、昨年を振り返るとコロナ禍のもとで「一社もつぶさない」「経営と同友会活動を止めない」を合い言葉に創意的な活動を展開してきました。

動そのものが、経済界が注目する直球と真ん中の取り組みを進めていたのだと思います。

ちなみに私たちの会社は創業27期ですが、コロナの影響を受けながらも経営指針で定めて主要な目標を達成し、期末には賞与を支払うことができました。同友会が提起している経営指針を軸に、全社一丸の気持ちで企業づくりを進めることが大事だと、振り返ってみて実感しています。

#### (1) 企業づくり

企業づくりでは、第16期経営指針を創る会が、4～11月にかけてオンラインを活用し、無事実施することができました。また、支部単位では経営理念を考える「経営未来塾」が広がりました。

#### (2) 地域づくり

昨年を振り返ると「日経新聞」では「パーパスをあきらかにせよ」というキャンペーンが打たれました。パーパスとは、なぜ自分の会社が存在するのか。その存在意義を明らかにすることです。

地域づくりでは、昨秋に光り輝く持続性のある地域づくりの主体者として、「さあ動きだそう!」誰もが幸せになる香川へ責任と覚悟を持って地域課題を解決する」をテーマに、第33回香川経営研究会が開催されました。ちなみに昨日、香川県と香川大学が「産学連携の新しいプラットフォームをつくりたい」ということで、同友会へ

同友会が推進している経営指針の成文化と実践の運動は、まさに自社の存在意義を明らかにする運動だといえます。香川における企業づくりの運

動そのものが、経済界が注目する直球と真ん中の取り組みを進めていたのだと思います。

ちなみに私たちの会社は創業27期ですが、コロナの影響を受けながらも経営指針で定めて主要な目標を達成し、期末には賞与を支払うことができました。同友会が提起している経営指針を軸に、全社一丸の気持ちで企業づくりを進めることが大事だと、振り返ってみて実感しています。

の協力の申し出がありました。この経営研究集会の内容を説明すると強い関心を示されました。

また、昨年も三木高校との「共育型インターンシップ」に取り組みました。この取り組みの実践をさらに継続発展させるため、香川同友会が三木高校と包括連携協定を締結したことも貴重な一歩だったと思います。

私たちの会社でも、三木高校の共育型インターンシップを受け入れて、大変大きな学びがありました。その一つは、若い高校生の視点の違いです。これまでも、「創業までの仕事はどのような仕事でしたか」「なぜ創業したのですか」そんな質問がありました。驚いたのは「経営者になって、どのように成長しましたか」との質問です。これは想定外でした。

二つ目は、対応する社員が自社を誇りに思っただけで対応していません。中堅社員や古参の社員にとって、高校1年生は子どもや孫と同じです。若い社員はつい数年前の自分の姿に思いを重ねて内省していました。

三つ目は、高校生の変化で

す。その高校生は「働くとは、お金を稼いで生活するためだけだ」と思っていたが、インターンシップを通して人に役に立つために働くことの楽しさがあった」と、感想を述べていました。将来地元に戻って働きたい職場があることを体感してもらえたことは大変貴重なことだと思っています。

### (3) 同友会づくり

同友会づくりでは、任意団体から一般社団法人に移行したことは大きな出来事でした。香川同友会は全国で19番目、1976年4月に34名の経営者で創立されました。45年の歴史を経て、現在1500名を超える会員がいます。行政や教育関係、マスコミの皆さんからも以前にも増して期待が高まっています。

2025年をめざす第7次ビジョンでは、2000名会勢をめざしています。今年

は大きく飛躍する年にしたいものだと考えています。また、コロナ感染が広がる中、オンラインによる例会開催に努力し、「経営と同友会活動を止めない」ために努力した大切な経験を積み重ねました。そして昨年夏、香川同友会としてコロナワクチンの集団接種にも取り組みましたが、貴重な取り組みだったと確信しています。

は大きく飛躍する年にしたいものだと考えています。

また、コロナ感染が広がる中、オンラインによる例会開催に努力し、「経営と同友会活動を止めない」ために努力した大切な経験を積み重ねました。そして昨年夏、香川同友会としてコロナワクチンの集団接種にも取り組みましたが、貴重な取り組みだったと確信しています。

私自身も経営指針や地域づくりの実績を話し、二人の経営者に入会してもらいましたが、入会することで「経営者として成長できそう」「会社が良くなりそう」と思ってもらえたことは嬉しい出来事です。

### 2 今年の展望

今年は「アフターコロナ」の年にしなければなりません。これを前提に、「語り愛のある小さな一流企業」をつくり、本格始動する年にしたいと考えています。

(1) 共育型インターンシップへの期待と関心にしっかりと応えられる「同友会運動」を推進すること

これまでの経験を踏まえ、今後3年程度のビジョンとして、高松市内、西讃、東讃の主要な地域で共育型インターンシップを推進したいと考えています。この大運動を推進することで、中小企業が若者の雇用を広げ、地域を活性化する担い手であることを明らかにしていきたいと考えています。

そのためには、全会員レベルで「経営未来塾」「経営指針を創る会」に参加し、社員と共に経営理念が語れる企業づくりをしっかりと推進していく。これは今年、本当に進めていきたい課題です。

(2) 「経営未来塾」「経営指針を創る会」の開催を通して、アフターコロナにおける経営指針の成文化運動の推進

この春から、「実質無利子・無担保融資（ゼロゼロ融資）」の返済が本格化します。返済が厳しい企業は、経営指針書を見直し、数字で今後の可能性を説明し尽くすことが大事です。



また、厳しくても経営指針に基づく定期雇用を追求することが重要です。なぜなら、それは10年先の自社を創造することになるからです。人件費を単なる「コスト」と考えるのではなく、経営の未来をしっかりと考えていくことが大事です。

### (3)「知りあい、関わりあい、認めあう」仲間の関係づくり運動

前期末から繰り返し検討してきた、新入会員さんが同友会で「自分が経営者として成長できそう」「自社が良くなりそう」と思える関わりをすることで、具体的には、入会后6カ月以内に「入会者全員のPR例会」を開催し、例会準備の過程から、「知る、関わる、認める」という関わりで、「経営課題解決の実践状況」を発表する場を提供したいと思っています。

そして、入会后2年以内に、「経営未来塾」に参加し、「経営指針を創る会」にも挑戦してもらい、経営理念がしっかり語れる経営者になってもらいたいと考えます。そのために大切なキーワードは、香川同友会が大切にしてきた、「知りあい、学びあい、援けあい」の精神です。

この、「知りあい」の精神をさらに深掘りし、会員を大切にす「知りあい、関わりあい、認めあう」仲間の関係を大事にしていきたいと考えています。

### ③「語り愛のある小さな一流企業」づくりの将来ビジョン

(1)「小さな一流企業」の定義

1. 黒字経営で社員と家族の豊かな生活を実現できる給与を支払う

2. 商品・サービスが地域と顧客に役立ち感謝され、社員と家族の誇りとなっている
3. 会員企業が、経営指針に基づき、小さな成功体験を積み重ね、労使の深い信頼関係がある。「小さな一流企業」になることで、地域の希望となる。

そして一人経営者も、経営指針に基づいて自社の存在意義を自覚し、社会的使命感に燃えて、地域社会からの信頼や期待に応えている



事業は「小さな一流企業」といえる

先日、東讃支部の会員さんから聞いたお話ですが、近くの浜辺で「うなぎ」ののぼりを立てて商売を始めた男性がいたそうです。

その男性は「私はウナギを売るだけでなく、この海辺を昔のように海水浴ができる浜にしたい。そのために浜を清掃し難らせた」と夢を語っていたということでした。「一人経営者でも志があれば地域は変わる」という事例の紹介です。

私もそうですが、起業するときは一人で始めることが常です。例えば小さな事業でも、その事業の存在意義や社会的使命が明確であれば、やがては組織経営の必要性が明らかになり、雇用をめざすことになります。単に社員を雇用しただけでは「組織経営」ではありません。社員参加で経営指針を成文化し、経営幹部を育て、全社一丸の経営の実現が必要です。

(2)全ての会員が「ビジョン」「戦略」「徹底実践」をする経営者になること

ある会員さんから、「もはや『議論をする・学ぶ』だけでなく、決めた方針を徹底的に実践する集団にならなければならぬ」という意見がありました。皆さんは、「ビジョンを持って経営をしていますか」「その日暮らし」になっていませんか。今年は社員と共に3年後のビジョンを語りあい、その実現のための「計画」を立案・徹底実行する経営者となる運動を推進していきたいと思えます。

「できない理由探しが上手」では、何も変わりません。主体的に行動する経営者にならなければなりません。そのためにも学びあい、援けあい、実践する経営者集団としての同友会が求められています。

最後になりますが、第6波の感染拡大の中でも、経営同友会運動を止めずに、「小さな一流企業」を県下各地で広げるために、今年も力いっぱい頑張っていきたいと思います。

## 2022年詞会

## グループに分かれて語り愛（語り合い）

年詞会2022では、新しい試みとして7つのテーマ別部屋（右記参照）が各委員会より設営されました。支部や地域の垣根を越え、参加した皆さんがご自身の興味や多様な属性に基づいて部屋を選択（移動自由）して交流しました。今回は7つの部屋の中から部屋長3名の方に「語り愛」を終えての感想をいただきました。

## 【テーマ別部屋】

1. 青年部そこまで言って委員会（青年部委員会）
2. ITよろず相談室（広報情報化委員会）
3. 女性経営者応援団の部屋（女性委員会）
4. 人材が集まる会社になれる部屋（共同求人委員会）
5. SDGsの部屋（環境経営委員会）
6. 繋がりの部屋（多様性委員会）
7. 社員とのコミュニケーションをちゃんと考える部屋（社員教育委員会）

## ITよろず相談室（広報・情報化委員会）

ITよろず相談室では、ECサイトからメタバースまで、困りごとというよりは現在興味があることについての意見交換会の形で行われました。一つに特化したスペシャリストか、全てに通じているジェネラリストかという話も盛り上がりしました。情報過多のネット社会では、正しい情報を取捨選択できるジェネラリストの必要性が増してきていて、統括できるディレクターはどの業界も不足しているという話になりました。

また一方では、強みを持ったスペシャリストでないと他社から選ばれない現状もあります。どちらを目指すべきかという話ではなく、全てを自社でまかなうという時代ではなくなっているのではないのでしょうか。得意分野を活かしつつ、他社との協力体制を取っていく必要があるというところで話が落ち着きました。しかし、メタバースが今後どうなるのかは誰も答えられず。これについては今後目が離せない分野であることは間違いないようです。



部屋長  
（株）三好製作所  
三好 幸司／記  
（高松第4支部）

## SDGsの部屋（環境経営委員会）

SDGsの部屋では、各社のSDGsの取組みや悩みについて語り合いました。先進的な取組みや浸透が進んでいる会社もありましたが、どう取組みばよいのか？との意見多数ありました。

SDGsは経営者だけが頑張っても前に進むことはできません。企業や業界、地域の課題をしっかりと理解し、経営の中にSDGsをしっかりと落とし込み、社員全員で取り組むことに最大の価値があるのだと感じます。

来期、環境経営委員会で企画予定の「SDGsを経営に活かす勉強会」のご案内をしたところ非常に高い興味を持たられる方が多数おられました。また、参加者の中でビジネスマッチングが生まれたり、企業訪問の約束がなされたりと、楽しい部屋となりました。



部屋長  
竹内農場  
竹内 一之／記  
（中讃第2支部）

## 繋がりの部屋（多様性委員会）

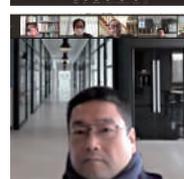
多様性委員会は「繋がりの部屋」という名称の部屋を設置しました。繋がりというキーワードで来られた方もいて、改めて多様性委員会のことを知っていただくいい機会になりました。

会社の強みとか多様性について思うことや自社での取り組みなどの情報交換をしました。以前とは人との接し方も変化してきているので、特性や個性を認めることで「こうあるべき」から「こうしたらどうか」など、業務を見直したり人間尊重の考え方で接していけば、自社だけではなく、取引先や顧客などとの関係も変わっていけるのではないかと話もありました。

今回は初めての取り組みでしたが、多様性委員会に参加されていない方の思いなども聞きました。視点を変えることで今後の取り組みや例会の参考になるいい機会だと思いました。



部屋長  
（特非）小豆島障がい児・者福祉  
ネットワークびいんず  
中島 正男／記  
（小豆島支部）



# 2022年詞会 実行委員長のまとめ

2022年詞会実行委員長

大和警備保障(株)／代表取締役社長 **川田 幸範氏**  
(高松第8支部)

2022年年詞会実行委員長の高松第8支部所属、大和警備保障(株)の川田です。

ご来賓の皆様におかれましては、ご多忙のところ、またコロナ禍で大変なところ、香川同友会の年詞会にご参加くださり誠にありがとうございました。また、同友会会員の皆様におかれましては、月末・週末のお忙しいところのご参加、大変ありがとうございました。

香川同友会の年詞会は新春の恒例行事であり、コロナ前では大講演会を開催し、大勢の会員で集まり、新春の賀詞交換を行っておりました。しかし、2020年初頭からの新型コロナウイルスの影響で大勢の人が集まり、顔を見合わせて語り合うことが出来ない情勢となりました。

昨年2021年年詞会では開催することでさえ危ぶまれ、今年の年詞会も年詞会という特性を鑑みると「対面で集まれないのなら、開催する意味をなさないのでは？」という意見もありました。

しかし、林代表理事の挨拶にもありましたように「自社と同友会活動を止めない」の方針のもと、今何が必要なのか？を議論し、たくさんの方が笑顔で集い、「語り愛」というキーワードにたどり着きました。コロナ禍でなかなか会えない、交流ができない、語り合えない、苦しくても相談ができない、といった仲間に声を掛け合い「語り合える場所」を創ろうと当年詞会の企画運営をして参りました。

弊社の話を少しします。2020年2月末の当時の安倍首相の学校の休校要請で一気に潮目が変わりました。受注していた仕事が軒並みキャンセル、毎年の受注予定の仕事の依頼もパツタリとなくなりました。弊社は警備会社です。得意とするイベント会場の警備が皆無となりました。社員の仕事場がなくなったのです。会社存続のための選択を迫られました。



その悩んでいる時に同友会主催の「雇用調整助成金セミナー」に参加しました。そのセミナーは制度や申請手続きの話だけではなく、何のための雇用調整助成金制度なのか？準備段階での社員との話し合いの大切さを交えてご教示くださりました。

そこで気付いたことは「社員を大切にする」でした。「雇用をまもる」「誰も解雇しない」と長年、同友会活動で教わり培ってきたことにより、たどり着いた決断でした。そしてすぐさま、経営指針書(方針や計画)を見直し、コロナ禍でも強い企業に変化させるために様々な取り組みをしました。イベント会場の警備は完全には戻らなくても今ではコロナ前より社員が増え、売上も増加傾向にあります。あの決断を迫られた時に雇用を守ったことが、現在の業績に反映されていると思います。

苦しいときこそ、仲間に頼り、相談し、語り合う大切さを今では身に染みて感じます。今回の年詞会が皆様にとって、少しでもそのような場になったのなら幸いです。

最後に、まだまだ見通しが立たない苦しい状況が続きますが、仲間で語り合い、知恵を出し合って頑張っていきましょう。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。